

松山市教育会情報

発行所 松山市教育会
松山市祝谷町1-5-33
☎ 089-933-0354
発行者 田中務
編集 調査研究部

出会い



副会長
久坂文治

今年度の定期総会で図らずも副会長に選ばれました。もとより微力ではありますが、会長のもと会員の皆様のお力をお借りしながら役目を果たしたいと考えております。どうかよろしくお願いたします。

定年退職後4年目の今年5月半ばから毎日が日曜日になり、それと同時に先輩の勧めもあって、「歩く」ことを始めました。朝の5時30分から7時頃まで、松山市中央公園と石手川の自転車・歩行者道(約5.6km)を歩いています。歩いていると、鳥や道端の木々や草花、そして人との出会いがあります。見知らぬ者同士が「おはようございます」と声を掛け合うのもうれしい。天声人語の辰濃和男さん著「四国遍路」に、「2本の足を交互に動かして歩き続けていると、人間が本来身につけている感覚を呼び覚ますことができる。『歩いているうちに』細かなことが気にならなくなる。いらいら、くよくよが減っていく。肩やヒジの痛みが消えていく。そして体内にとどこおっていたものがゆるやかに流れ始める。」と説いています。私も歩いていると、前向きの気力が湧いてくるから不思議です。8月末で、総歩数689,646歩(約483km)です。日本一周18,880km(歩数計より)を目標に、これからも出会いを大切にしながら歩んでいきたいと思っています。

さて、8月23日・24日、第64回日本連合教育会研究大会呉大会に参加しました。この大会への参加は現職のころから数えて4回目になりますが、いつ参加してもとても懐かしい気持ちになります。お世話になった先輩方の元気な顔を拝見したり、一緒に仕事をした現職の先生と出会ったりと、私にとっては会の内容以上に得るものがあるよう思われます。また、8月12日に市教育会第3ブロック地区(味生、生石、垣生、余土、味生第二、さくら)事業、グランドゴルフ大会に参加しました。今年で3回目、毎回40名程度の参加があり、OB会員から現職の若い会員まで、本当に和気あいの雰囲気の中で、楽しい活動ができました。

教育会の諸々の会合や行事では、「元気でしたか。お久しぶりです。」とか「いま何かしてるんですか。いまどの学校ですか。」というような会話で始まります。現職の時に比べて人との出会いが少なくなった私にとっては、何ともいえない出会い(再会)です。退職された先生が教育会に入会していただけないということを耳にします。教員生活で出会った多くの仲間と、退職を機に関係を切ってしまうのも寂しい思いがします。

人間は人と人とのつながりで生きています。出会った人との絆を大切に、魅力ある市教育会を目指して、新たな第一歩を踏み出したいと思います。



一文武両道の植物学者—
「ふるさと松山」挿絵より

平成23年度 教育功労者

松山市教育会



感謝

井上 篤

この度は思いがけなくも教育功労者賞を賜り、深く感謝しております。

中学校の校長として勤務しておりました時、全日本音楽教育研究会会長の福井直敬先生より、愛媛で昭和62年度の全国大会をぜひともやってほしいという依頼がありました。何人ぐらいの先生方が来られるのかを確認したところ、3千人ぐらいだろうというお話でした。当時、愛媛には3千人が一堂に入れる会場がなく、お断りしたのですが、降ってわいたように3千人収容可能な県民文化会館ができるという情報が耳に入ってきました。私は、雲をつかむような話でしたが、引き受けました。

さて、それからが大変でした。やけくそになったり、自分で自分を励ましたりと、本当に焦燥の毎日でした。しかし、今、静かに振り返ってみますと、豊かな生涯を展望した音楽教育の在り方について、それぞれの立場において衆知を集めた研究に取り組んだ成果の表れた大会となりました。大会の推進に当たっていただいた大勢の先生方、全国から参加していただいた先生方、ご支援ご協力いただいた関係機関の方々に深く感謝しております。私にとっても教職生活41年間の歳月の中で最も貴重なものであり、何物にも代えがたい自己教育力の糧になりました。

最後になりましたが、この度の受賞に当たりご推薦いただきました関係各位に感謝し、お礼申し上げます。

最後になりましたが、この度の受賞に当たりご推薦いただきました関係各位に感謝し、お礼申し上げます。



女性教職員と共に

雲井 美知子

今年も終戦記念日を迎えました。

現在の繁栄の礎となった世代、戦争の時代を語る世代が少なくなっていますが、同様なことを教育の現場で思います。

当然と思われる現今の勤務等の諸条件は、愛媛県教育研究会婦人部の活動によるものであることを伝えておきたいと思います。振り返れば私が昭和54年から63年の退職までの9年間は県婦人部長として、また、その間に全国の婦人部長として、実態アンケート調査とそれに伴う以下のような要望を国や県の行政等に働きかけた活動の期間でもありました。(写真は文部省を訪問し要望を伝えている雲井部長)

・定年退職の男女差の撤廃(校長60歳、教頭59歳、男子教員58歳、女子教員55歳)
・管理職登用に伴う、配偶者の婦人教職員の事前退職の廃止
・教職員の定数の引き上げ
・育児休暇期間の延長
・育児休暇期間の有給制の実施(無給でした)

なかでも育児休暇については、その後の歳月を経て、多くの若い女性教員がその恩恵を活用している姿を見るにつけても、大きな喜びを覚え、他の業界に先駆けた実施に胸を張る思いです。

今後の教育会のますますの発展を祈念し、感謝と、お礼の言葉とさせていただきます。

今後の教育会のますますの発展を祈念し、感謝と、お礼の言葉とさせていただきます。

今後の教育会のますますの発展を祈念し、感謝と、お礼の言葉とさせていただきます。

今後の教育会のますますの発展を祈念し、感謝と、お礼の言葉とさせていただきます。

今後の教育会のますますの発展を祈念し、感謝と、お礼の言葉とさせていただきます。

今後の教育会のますますの発展を祈念し、感謝と、お礼の言葉とさせていただきます。

今後の教育会のますますの発展を祈念し、感謝と、お礼の言葉とさせていただきます。

松山市教育会 松山市教育研究協議会 合同 教育研修会

平成24年8月30日(木) エスポワール愛媛文教会館

平成24年度第1回教育研修会が、松山市教育研究協議会と共催で行われた。講師として、オリンピックイヤーにふさわしいNPO法人レジェンド松山 理事長 大野加壽子(おおの かずこ)先生をお招きし、「あかるく すなおに ひたむきに」と題してご講演いただいた。

大野先生は、聖カタリナ女子高校のバスケットボール部から実業団のユニチカに入社、キャプテンとしてご活躍の後、世界選手権に出場され、その後1976年開催のモントリオールオリンピック女子バスケットボール日本代表選手として活躍された方である。ユニチカ退社後は、愛媛県体育協会スポーツ指導員、中予ミニバスケットボール連盟理事、松山市バスケットボール協会理事長、愛媛県・松山市体育協会理事等を歴任された。現在は松山市体育協会委員および愛媛県スポーツ振興審議会委員を兼務されながらNPO法人レジェンド松山の理事長として精力的に21世紀を担う「心豊かな人間づくり」に邁進されている。



今回は壮絶な大野先生ご自身の体験談を中心に講演いただき、指導者としての望ましいあり方について多岐にわたりご示唆いただいた。その概要を以下に紹介する。

1 小学校・中学校時代の辛い経験から学んだこと

小学校高学年でいじめを受け、孤立し、他人としゃべらなくなった。父親が病気になり、家計を母親が働いて支えていた。小5の時、その母に「いじめ」のことを訴えると、「よう辛抱した」といって抱きしめてくれた。この時、涙があふれ出た。小6の時、いつもは優しい学級担任の先生が、顔を真っ赤にし、教卓を叩きながらいじめに対して学級を指導(叱って)してくれた。本気で叱ることの大切さを学んだ。

父親への説得を1年間重ね、やっと中2でバスケットボール部へ入部した。当時、背が少し高かったので、一生懸命努力してきた他の部員の代わりに先発メンバーに入れてもらった。うまくコミュニケーションがとれずに他の部員に誤解され、また孤立した。この時、母親が私の変化に気づき、鉛筆を削って学習道具の準備してくれていたことがあった。(無言の励まし)「親の愛情は常に出すのではなく、本当に困った時に手をさしのべるものである」と感じた。

2 聖カタリナ高校・ユニチカ時代の厳しい練習から学んだこと

一番辛かったのは、厳しい練習よりも「上下関係」のこと。先輩への接し方や監督からの厳しい指導から、「コートで先輩にやりかえしてやろう」という気持ちを植え付けられた。
<ユニチカ時代の練習で教えられたこと>

- 「くやしきはエネルギー(ため込んで次に生かせ)」
- 「くやしさを他人のせいにはいけない」
- 「1回でやる。集中してやる」
- 「『失敗することが恥ずかしい』と思う心が恥ずかしい」



辛く厳しい練習に耐えることができたのは、母のおかげである。小さい頃から「よう辛抱した、よう辛抱した」ということが頭にすり込まれていたことに加え、母親の大きな愛情があったから。

◎愛媛からユニチカへ行くとき母親が荷物をずっと持って送ってくれた。

「あんたはこれからずっと苦勞するんやから、今は荷物は持たんでいい」

◎ユニチカ時代にお菓子の入った小包を送ってくれた。カタカナ書きで添えてあった手紙。

「ヘンジヲカクジカンガアッタラ ヤスンデネ」

3 指導者としてあるべき姿

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| ○常に目標や夢を持たせる指導! | ○言葉でもってやる気を起こさせること! |
| ○礼節をわきまえた選手(人間)に育てる! | ○常に子どもたちに「へえー」と言わせる指導を! |
| ○欠点は人の前で指摘せず、個人的に! | ○常に自分の指導法を進化させるべし! |
| ○常に子どもに対して本気で接すること! | |

「今後も指導者として、人生の金メダルを取れるように日々精進していきたい」という言葉で講演を締めくくられ、会場から盛大な拍手が湧き起こった。今回、教員として、社会人として、親としての指導のあり方を見つめ直すよい契機となったことに大いに感謝したい。

第5回 教育講座①(情報教育)

平成20年度にスタートした教育講座も、参加者の好評を得て5年目となりました。8月16日(火)はお盆の時期にも関わらず、若い先生からベテランの先生まで多くの先生方にお集まりいただきました。

本年度は、過去4回の「先輩教師からの伝言」とは趣向を変えて、愛媛県教育センターから講師の先生をお迎えし、現代的課題に対応するための具体的な教育実践に基づく講演をしていただきました。

忽那浩先生の紹介

今回講師としてお迎えしました忽那浩先生は、現在愛媛県総合教育センターの情報教育研究室に勤務されています。情報教育における今日の課題を研究テーマとして取り上げ、愛媛県内の教職員の研修や学校に出向いての講演活動などに取り組まれています。

今回は、児童生徒を取り巻くインターネットや携帯電話のトラブルを防止するために必要な知識を身に付けるとともに、各学校における児童生徒への指導や保護者への啓発の在り方について研修を行っていただきました。



題して「インターネットや携帯電話のトラブルから児童・生徒を守るために」

1 なぜ情報モラルが必要なのか？

現在スマートフォンが携帯電話の主流となりつつある。スマートフォンには、自分でアプリを入れて機能を拡張させたり、どんなサイトにも無制限につながったりするという特徴があり、それ故にスマートフォンによるインターネットをめぐるトラブルは、従来型携帯電話の約2倍に上るといえる。

インターネット普及率や携帯電話普及率は今や90%を超えているが、15、6年前はほとんど普及していなかった。つまり私たち教職員や保護者は、携帯電話やインターネットの正しい在り方について学校で教育を受けてこなかった。その結果、子どもたちと知識やスキルにギャップが生じ、認識のずれが明白となった。

2 インターネットは匿名？

インターネットは「リクエスト(アクション)」と「リプライ(反応)」という相互の関係から成り立っている。この二つは自分と相手、双方のサーバーにログが残るため、いつどのパソコンからどのようなことをしたのか、簡単に個人を特定できる仕組みになっている。つまり、ネット社会は匿名ではないのだ。その認識がない使用者が無責任な情報発信を繰り返し、ネットにいい加減な情報を発信するため、毎年多くの検挙者・逮捕者が報告されている。

3 携帯電話・インターネット上のコミュニケーションツールとは？

チャット…複数の人がネットワーク上に用意された1か所に参加し、テキストを入力してリアルタイムに会話を行うシステム。出会い系サイト化し、犯罪の温床としての一面もある。

ブログ…日記的な Web サイトの総称。日々簡単に記事の更新ができる。コメント機能やトラックバック機能がある。児童生徒を批判する内容が目立つ。

Twitter…オンラインで「つぶやき」のようなメッセージを交わすサービス。文字データだけでは真意が伝わらず、トラブルを招くケースが多い。

プロフィール…自分のプロフィールのページを作成できるサービス。地域や学校名などで検索すると個人が特定されやすい。リンクで友人関係が分かってしまう。

リアル…自分の気持ちをリアルタイムに更新して身近な人に見てもらおうブログ。(友人しか知らないと思っていたことが)知らない人にも状況が伝わってしまう。

掲示板…参加者が自由に文章などを投稿し、書き込みを連ねていくことでコミュニケーションできる Web ページ。無責任な書き込みが問題視されている。

SNS…社会的ネットワークをインターネット上で構築する、会員制のサービス。

4 その他の問題点

- ・ 犯罪の温床となる出会い系サイト
 - ・ ウェブブラウザ経由のウイルス感染
 - ・ 違法ダウンロードサイトと著作権侵害
 - ・ 恐ろしいケータイ依存
 - ・ 技術やシステムの進歩を悪用
- 例) モスキート音を着信音に利用



5 現状を知る

子どもたちはインターネットや携帯電話を利用する中で、文字情報で誤解し合い、仲間から孤立している。また「親や先生に迷惑をかけたくない」という思いで相談できないでいる。その証拠に親がケータイにフィルタリングをかけたり家庭でルールを決めたりすると、最初は反発こそするが、しばらくすればそのことに感謝するようになる。それほどまでにケータイ依存は恐ろしいし、子どもの力だけではトラブルから抜け出せなくなっている。学校で情報モラル教育を実施すると、生徒が教師に相談に来るようになったという事例もある。したがって今後学校や保護者がすべきことは、何よりも「子どもの気持ちを理解に努めること」である。

参加者の声

- 生徒がハマっているゲームやトラブル等の内容が知ることができ、ネットを取り巻く子どもの状況がよく分かった。
- 情報モラルの重要性について再認識することができた。ネット・携帯のトラブルに関する認識が私自身甘いことが分かった。
- 教えていただいた資料リンク集の中身を活用して、学校で2学期から情報モラル教育を推し進めていきたい。保護者向け啓発活動も積極的に行い、教師も保護者もしっかり学び、相談してもらえるようになることも大切だとひしひしと感じた。

第5回 教育講座②(キャリア教育)

昨年度までは基礎研修講座を催していましたが、今年度は、喫緊の課題に対応するべく「キャリア教育」に視点を当てた講座を開催しました。講師は、愛媛県総合教育センター 教育相談室の研究主事である土居浩先生にお願いしました。

松山市教育会の田中務会長の開会のあいさつに続いて、山高調査研究部長により講師の紹介を行い、講座が始まりました。

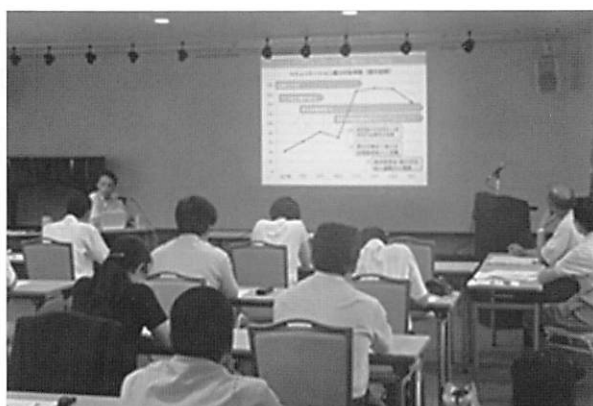
期日：平成24年8月24日（金）午前10時から

＜キャリア教育とは＞

キャリア教育については、何となく分かっているようで、どう進めていけばいいのか、なかなか難しいものがあると思います。

今回の講座では、「キャリア教育の進め方」と題して、次の内容で進められました。

- 1 キャリア教育の基本・基礎
- 2 キャリア教育に関する三つの誤解
- 3 キャリア教育の推進
- 4 PDCAサイクルを基盤としたキャリア教育の推進について



1 キャリア教育の基礎・基本

学習指導要領の改訂とキャリア教育内容については、小学校では、「清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解」の事項が付け加わっていること、中学校では、学級活動の内容の「職業観・勤労観」が「勤労観・職業観」に順番がかわっていることなどについて説明がありました。また、キャリア教育に関する新たな定義について、平成23年1月、中央教育審議会は、「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」をまとめており、その中で、キャリア教育は、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基礎となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す教育」であることを理解することが大切であるとの説明がありました。なお、キャリアとは、「人が、生涯の中で、さまざまな役割を果たす過程で、自らの価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねであり」、簡単にいうと「つながりがキャリア」であること等たいへん分かりやすく説明していただき、理解を深めることができました。

2 キャリア教育に関する三つの誤解

キャリア教育に関する三つの誤解については、「フリーターや若年無業者の増加を食い止める対策」・「職場体験活動を実施したことをもってキャリア教育を行ったものとみなす」・「学校・地域の特色や児童生徒の実態等を必ずしも前提としない固定的・画一的な運用」などの三つの誤解あるとの指摘があり、理解・認識を新たにすることができました。

3 キャリア教育の推進

学校現場でのキャリア教育の推進をどのように進めたらよいか話していただきました。研究主題・全体計画・活動の洗い出しの留意点・体験活動の計画・評価の内容と方法について、小中別に留意点の説明がありました。その中で、研究主題については、小学校、特に低学年では、自己理解を行うとともに、学年で違いがあること、また、中学校でも、発達段階により学年間で違いが生じることに留意すること、中学1年生では、夢やあこがれを抱く段階から、全体として小学校で培った能力をさらに伸ばしながら社会的自立へとつながるよう留意していくことが大切であるとともに、小中の状況を把握しておくことについても留意する必要があるとのことでした。

4 PDCAサイクルを基盤としたキャリア教育の推進

Plan・Do・Check・Actionのサイクルを基盤としたキャリア教育の取組について、小中別に参考となるそれぞれの例をもとに、全体計画についての説明があり、理解を深めることができました。

5 まとめ

まとめとして、改めて、キャリア教育では、「生きること」と「働くこと」を関連付けてとらえることが大切で、場面、場面で果たす役割一つ一つの積み重ねが、その人にとってのキャリアになること、その中で自分らしい生き方を実現していく過程がその人のキャリアの発達であり、そして、社会的・職業的自立を果たし、自己実現を図ることになるとお話をいただき、今後のキャリア教育の実践に生かしていくための大変参考になる講座でした。



<参加者の感想の一部>

- ・キャリア教育は何かという基礎について知ることができました。
- ・キャリア教育の基礎・基本がよくわかりました。全体計画作成等、とても参考になりました。
- ・ぼんやりとしたキャリア教育の輪郭が見えたように思います。あとは実践で中身をつめていきたい。
- ・今回のような少人数での研修はすごくよかったです。
- ・キャリア教育自体よく分からないまま、言葉だけがひとり歩きしていましたが、キャリア教育が重視されるようになった背景がわかり、勉強になりました。
- ・昨年のOBの先生の研修もよかったですのですが、今回の研究機関の先生の話も新たな気持ち、視点、刺激があってとても充実したものになりました。



ブロック編成

区名	学 校 名	区名	学 校 名
1区	番町小、味酒小、八坂小、東雲小、清水小、姫山小、勝山中、東中	5区	堀江小、潮見小、久枝小、和気小、みどり小、鴨川中、内宮中、北中
2区	新玉小、雄郡小、素鷲小、桑原小、たちばな小、双葉小、拓南中、雄新中、桑原中、城西中	6区	湯山小、日浦小、道後小、湯築小、伊台小、五明小、道後中、湯山中、日浦中、旭中
3区	味生小、生石小、垣生小、余土小、味生第二小、さくら小、津田中、垣生中、余土中、西中	7区	浮穴小、石井小、荏原小、坂本小、椿小、石井東小、石井北小、久谷中、南中、南第二中、椿中
4区	三津浜小、宮前小、高浜小、興居島小、怒和小、津和地小、中島小、三津浜中、高浜中、興居島中、中島中	8区	久米小、小野小、北久米小、福音小、窪田小、久米中、小野中
		9区	浅海小、難波小、立岩小、正岡小、北条小、河野小、粟井小、北条北中、北条南中

ブロック紹介

現職・OBが集う北条ブロック

第9ブロック副ブロック長 田中 康子

北条地区には、東に高縄山・西には絶景の夕日が映える瀬戸内海に鹿島が浮かんでいます。また、高縄山を源流とする立岩川、河野川、粟井川が並行して西流し自然あふれるところです。

北条ブロックは、現職とOBの連携を密にするため、いろいろな取組をしています。本会は、北条地域を一体化して、北条小学校に事務局を置き、約30名の役員が年間5回評議員会を開き、企画運営に当たっています。総会は、現職・OBが80名ほど集まり、恒例の懇親会では新しく北条に来られた先生方を大歓迎します。「〇〇君かな！大きゅうなって。立派になったのう。」「先生もお元気で・・・。」と大盛況です。クッキングは男先生たちもエプロンをつけて張り切って参加します。研修会では、理学療法士・定松修一先生が「東北の震災から見えるもの」と題して講演されました。研修旅行では、大型バスで宮島方面へ36名が出かけました。最高齢は88歳の女先生。みんなで誘いあい多くの80代も参加しました。宮島では、現職とOBの女先生が手をつないで歩いたり、疲れた人がいると教頭先生が車椅子を探して乗せてあげたり、親睦が深まりました。「来年も足を治していくからね。」と嬉しそうに手を振って帰られました。涙が出ました。グランドゴルフ大会では、101歳の男先生も参加。賞品をいっぱいもらい、親睦を深めました。

現職とOBが会うたびに会話も弾み、高齢化したけれどみんな生き生きしています。

23年度ブロック独自の事業

- 5月：総会・懇親会
- 7月：楽しいクッキング
- 7月：ブロック研修会
- 8月：人権教育研究大会参加
- 9月：高齢者慶祝（9名）
- 10月：一日研修旅行（宮島）
- 11月：グランドゴルフ大会

囲碁大会

開催期日

平成24年7月22日（日）

開催場所

エスポワール愛媛文教会館

参加人数

25名

（棋士15名、スタッフ10名）

本年度も実力伯仲で接戦が繰り広げられた。各級ともに優勝の行方は最後まで混沌とし、日頃の精進ぶりが伺えた。

参加者の高齢化が目立つが、大先輩の真摯な態度に接し、教育会としての意義を感じている。さらに健康に留意され、次年度以降の参加を祈願した。

〈成績〉

	優 勝	準優勝	第3位
上 級	真部 明雄	高須賀嘉夫	玉井 幹夫
中 級	馬嶋 治男	平松 清一	宇都宮正男
初 級	長岡 芳朗	門屋 睦夫	井上 徹